

一生の基礎

どんな高い山でも一握りの土からである、
大海も一滴の水からである、
今日一日くらくらりと軽く考へてはならない
今日一日、そわわが一生の基礎である

天の貯金

骨折らないで取り込む、これは危ない、
骨折して力も汗も出さぬ、人の喜びのためにつくす、
これは骨折り損ではない、天の貯金が出来たのである、
本当の幸運をつみ上げたのである。

人を見て自分が学ぶ、これが自然の真理だよ

徳の器うつわ

名誉も地位も財産も自分の徳の器うつわ以上のものは
入らない。器うつわが小さければ、こぼれる。まず自分の徳
の器うつわと大きくすることだね。

男女同権

男女同権といふのはね、男も女も価値は同じ、同じように尊ぶといふことだよ。

けれど役目はちがう、天から頂いた体のしくみもちがうだろ。

金魚と虎とら

金魚と虎とどっちが強いかといえは、それは虎である、
けれどそれは地上の上での話である、水の中に入れば立場は変
わる、金魚と虎とは同じ場所にはすめない、
つり合わぬは不縁のもとというだらう、いやな人、きらいな人と
同じ職場・家庭・場所にいるという、とは、よほど自分の
魂とつり合っていないからだよ、自分を磨き魂を上げれば、
悪い縁は切れるし、相手が願わずとも変わってくるよ

不運と縁切れ

不幸災難とつり合おめかたら不幸災難に
であうことはなまよ、つり合わない自分につくり
変えらると、不運とは縁切れと知るんだよ

困る人を助ければ自分が困らない人になるんだよ

体の病気と運命の病気

体の病気は只の疲れ、すぐ良くなる、
運命の病気はちがう、自分の運命が良くなる
ないかぎり、なかなか病気も良くなるな

節ふしから芽を出す

ゆき詰まるとどうにもならぬ時、ふと助ける人と
縁がでる、節ふしから新しい繁栄の芽を出す人は、
報恩奉仕に力を尽くし鮮やかな善根の種たねを
まいた人である

もし人生で壁にぶつかったらね、つまりでも壁と
見ていかなど、右と左とよく見て、たくましく明
るい道を選んで進んでいくことだね

大根だいこんに学ぶ

黒土、真黒な闇やみ

その中から大根だいこんの種たねは

真白いものだけと集めて、みごとが大根だいこんになる。
人も暗い人生、悩み、その中から明るくものだけを見つる。
そして陽気な心の種たねをまく、とり方上手な人
そこに明るい運命が開けていく

夫婦もね、相手が悪くんじゃなんだよ

その相手につり合う自分なんだから

一時の栄え

相手を倒して栄える、悲しませて栄える、
私は一時の栄え、人間小細工の繁栄である

災難を拾う人

百万円拾った、それは百万円をおとった人があつたからである、おとった人は「アッ百万円おとった」、運が悪かつたと暗い心になつたであらう、それを拾つたのである、いわば他人の運の悪く暗い心と拾つたのである、拾つた後は運命の下り坂になるのは当然のことである

人を助けるのは自分の力じゃなんだよ

自然の力がするんだよ、ぼくたちは只そのお手伝いをしてもらうだけなんだから

無理に肩はる生き方は疲れるよ、肩の力をぬきながら

忠告されてうらむ、苦言を呈せられて怒る、
これは自分の欠点を取り去ることの大切さを
知らぬ人の姿である

「手を打てば、女中は茶をもち、鳥はたら、魚は寄りくる、猿沢の池」といふ歌があるだらう、同じ音を聞いても、女中さんはお茶、魚はうま、鳥はかられたと聞くのと、一方は性格や育た環境によつて千差万別なんだよ、だから手を打つ方は、どううけとられるかを気にするとはななんだよ、
人の顔色は見なくていいんだよ

一人だけでも

私一人くらい、どう考え、わがままをやると、
それが世の乱れの源になる。せめて私一人
だけでも世のお役にたとう、この願は世を
豊かにする。

「好事、魔多し」といふだらう

良いことをたくさん頂いたら、魔の前に、
先立ちて、しるが世のため人のためにつくして
おくことだね

自分を磨く時代

自分で自分を守る時代ではない、
無限の守りに包まれてゐるといふ時代である、
自分を鍛え、磨けばよい時代である、
生き方の流れを変えよう

不幸、不運を消すためにはね、何ぞもい

人に喜ばれることを多くつみ重ねるとだね

目に見える敵が攻めてきたら、逃げどころもあが、
目に見えぬ敵が攻めてきたら、逃げるに逃げられない
病気や災難が迫ってきたら、どこにもかくれる所はないよ、
だからまず自分の運命を良くすることが何よりも大切である

どたんばの力

人間はどたんばになれば大きな力がわく

「窮すれば通ず」といわれてくる

窮して八方ふさがれば不思議な悟りが開く

この意味でどたんばは尊い悟りの親・難局

打開の師匠でもある

りきみを去る

自然のまま、りきまない姿、
閉ぢくならない構え
ゆとりをもつ姿、ここに自由自在がめぐまれる

もし、人に馬鹿にされたらね、ぜんしゅう前生悪因縁を
納消なつしょうしたと喜ぶことだね、むぎふ麦踏むぎふみは、踏ふまれただけ
よくみの稔みのるんだよ、人もうんと踏ふまれて喜よろこび
勇ゆうむことだね

失敗を悲しむ人は自滅して、

失敗を学ぶ人は復活する

助かるように助けらる。

餅のつけない人に餅を与えるのは「助けた」ということになりませんが、「今年に餅をもらって年を越した」が来年は自ら餅をついて他人に与える。

恩人にお礼をする。そんな考え方を育てる。ことが真に助かるように助けたと誇りになります。

世に出ることをあせむ人が多し、
それがこの世に争いの種たねをつくる、
人間にとつて一番大事なのは、自分を
磨くことである。

人の中の人と尊ばれる人は常に意外なところで育てられてゐる。人に知られぬ苦難逆境の中で伸びてゐる

いぼらの道とこゑるみらほ、いぼらの道
を

こゑたものでなけれはあからないよ